

主な内容

- 1~2...GIGAスクール構想
- 3...春から始めるスポーツ
- 4...名張市史だより
- 5...やまなみ号
- 6...ひまわり

催しへの参加は、マスク着用など感染防止にご協力ください(催しは中止・延期の場合あり)

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉pr@city.nabari.mie.jp

タブレット端末は鉛筆やノートと同じ「一つの道具」として、学校現場でのICT(情報通信技術)の活用という、パソコン教室に移動してパソコン操作を学ぶといった場面を想像する人も多いと思います。でも、「一人一台タブレット端末」やネットワークの整備が進むと、子どもたちの学びの環境はガラッと変わります。

子どもたちは、普段授業を受けている教室で、タブレット端末を手に置いて、情報通信ネットワークを通して、必要な時に情報を調べたり、取り出したり、鉛筆やノートと同じように、「一つの道具」として使いこなすようになっていきます。

また、個別学習の場面で、子ども一人ひとりの習熟度や到達度に合った学習ができるほか、一斉学習や協働学習の場面では、各教室に設置する大型テレビやプロジェクターを活用し、子どもの考えや意見をまとめて

みんなで共有することができます。今まで意見を発表することが苦手だった子どもも、積極的に授業に参加することができ、さまざまな意見に触れながら学習を深めることができます。

このように、市ではタブレット端末を「一つの道具」として有効に活用することで、子どもたちみんなが主体的に参加する「学び」を実現していきたいと考えています。

アナログとデジタルの融合で効果的な授業を

小学校では令和2年度から、文部科学省が定める「新学習指導要領」が完全実施されていて、新しい教科書がスタートしています。(中学校は令和3年度から使用)。新しい教科書の多くでは、「QRコード」が掲載されていて、タブレット端末をかざすと、例えば、算数の図形を自由に動かしたり、英

語の発音を聴いたりすることができます。

一人一台タブレット端末が配備され、今後はデジタル教科書(※1)などの開発がさらに進むと、子どもたちの学びもさらに大きく変わっていくことが予想されます。ここで、大切にしたいことは、読むことや書くことといったアナログ(紙教材や黒板など)のいいところと、デジタル(ICT)のいいところを組み合わせていくことです。

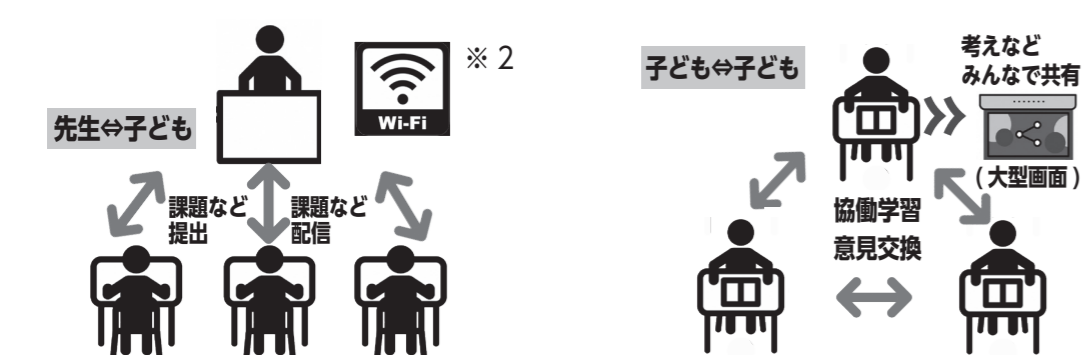
どの場面でもこの時期にデジタルを使うことが効果的で理解を深めやすいのか、教科書の授業のねらいにに応じて、使い分けしていくことが大切だと考えています。

今後、社会のグロ-



名張市教育委員会 指導主事 大杉 栄介

タブレット端末導入でこのように授業が変わる



- ▼一人ひとりの反応を踏まえた「双方向型」の一斉授業が可能になり、教師は一人ひとりの反応を把握しながら授業を進められるようになる。
- ▼一人ひとりの理解度などに応じて同時に別々の課題で学習をしたり、個々の学習履歴を自動記録できたりと、一人ひとりのニーズや学習状況に応じた個別学習が可能になる。

- ▼タブレット端末の導入により、自分の考えや意見を伝えやすくなる。さらに、個々が記事や動画などを集めたり、各自の考えを共有してグループで考え方をまとめたりすること(協働学習)が容易となる。すると、全ての子どもが情報をまとめることを経験でき、多様な意見に触れる機会も増える。

(※1) デジタル教科書... 紙の教科書の内容をタブレット端末などで活用できるようにした教材 (※2) Wi-Fi (ワイファイ)... 無線で通信するための方式

デジタルで「学び」の環境が変わる。

名張中学校の先生と生徒にインタビューしました

紙教材とタブレットの“いいとこどり”をしながら、活用する場面や授業のねらいに応じて使い分けていくことが大切。タブレットは使うことが目的になってはいけません。今後は、他の中学校の先生とも情報交換しながら、より深い学びに導く授業を進めていきます。

名張中学校 3年1組担当 学年主任 西山 祐平先生



授業ではノートに書かなくてもよい部分が増えて、重要なところに集中できるようになりました。



名張中学校 草皆 樹里さん

タブレットを使って友達と意見交換したり先生に相談したり、コミュニケーションがスムーズに取れるようになりました。



名張中学校 赤田 大鳳さん

授業や勉強のほかに、部活の練習の様子を録画して後で見直すという使い方もできたらいいですね。



名張中学校 田中 梓紗さん



現在、全国の小・中学校では一人1台のタブレット端末とネットワーク環境を一体的に整備する「GIGAスクール構想」が進められています。今号では、「一人1台タブレット端末整備」やICT(情報通信技術)の活用で、市内小・中学校の子どもたちの「学び」がどのように変わっていくのかをご紹介します。

© GIGA(Global and Innovation Gateway for All (全ての人にグローバルで革新的な入り口を)の略

☎ 学校教育室 ☎ 63-7882

名張中学校では、1月25日からタブレット端末を活用した授業や健康観察の取組などが始まっています

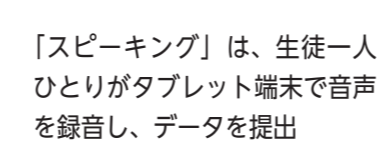
英語の授業開始。2分間の単語テストではタブレット端末で直接回答し、先生に送信。先生は生徒全ての習熟状況や到達度を確認します。



タブレット端末に入っている音声データで「リスニング」の練習。回答は入試対策も兼ねて紙の教材を使用



「スピーキング」は、生徒一人ひとりがタブレット端末で音声を録音し、データを提出



高校入試の過去問題にも挑戦。タブレット端末には過去4年分の問題が。好きな問題を選んで回答



名張中学校3年1組を取材しました



一日の始まりは保管庫から自分のタブレット端末を取り出すところから!



タブレットを使って出欠確認。健康状態なども報告します。この日はタブレット端末を使った授業についてのアンケートが行われました。

一人一台タブレット端末とネットワーク環境で授業がもっと分かりやすくなる!



児童・生徒が使用する キーボード付きタブレット端末

2ページへ続く